

西村町長

3期目の所信表明 (要約)

6月6日から14日にかけて開催された令和4年第2回町議会定例会において、西村博則町長が3期目としての所信を表明しました。そこで述べた「8つの約束」を一部要約して紹介します。

『8つの約束』

1 熊本地震からの復旧・復興とコロナ対策がなにより最優先

平成28年熊本地震から今年で6年を迎えました。しかし、いまだ復興事業などの影響で住まいの再建ができず、仮設住宅などでの生活を余儀なくされている方々もおられます。引き続き最後のお一人まで、被災者に寄り添い再建を支えてまいります。地域コミュニティの再生につきましても、社会福祉協議会をはじめ、各種団体などと連携し、地域の高齢者を見守り、多世代交流を進め、孤立を防いでまいります。

熊本地震からの創造的復興のシンボルとなっている、益城中央被災市

ナを見据えた支援を引き続き実施してまいります。

2 被災経験を活かした防災に強いまちづくり

過去に例を見ない震度7の大地震に2度見舞われた経験を踏まえ、「二歩先の防災・減災」対策に取り組みます。

そのため、より強固な公共インフラ整備や老朽化対策などを進めるとともに、自主防災組織の活動支援や防災士の養成に加え、ドローンでの情報収集やSNSでの情報の迅速な発信ができる仕組みを構築します。

また、町民の避難場所として、防災公園となる新たなグラウンドなどの整備を行ってまいります。

さらには、震度7の大地震に2度見舞われた本町だからこそできる記憶の継承につきまして、防災教育の拠点として「天然記念物に指定されている布田川断層帯」の保存活用を行い、町民が日ごろから防災を意識する機会を増やすとともに、教育旅行を誘致するなど、全国にも地震の記憶を発信してまいります。

2 地域と一緒になって進める新たなにぎわいづくり

地域の魅力を高め、町全体のにぎわいづくりに取り組みます。

木山地区の中心部では、4月にオープンした「復興まちづくりセンター」にじいろ」に続き、新庁舎や交通広場などの整備が進むことで、人の流れが多くなることが予想されます。そのため、カフェなどの居心地の良いくつろげる空間づくりを進めるとともに、交流情報センターミナテラスやチャレンジショップなどの回遊性を高めることで、木山地区中心部のにぎわいを創出してまいります。

また、物領地区にオープンした「BOX PARK マシキラリ」、四季折々の自然やキャンプ、水遊びなどを楽しめる施設として整備中の潮井自然公園など、各エリアに魅力的で誰もが集いたくなる空間を整備するとともに、ソフト事業も組み合わせながら、町全体のにぎわいを創出してまいります。

さらには、来年3月に新旅客ターミナルビルが供用開始予定の「阿蘇くまもと空港」を本町の地域資源として捉え、県の大空港構想と地域公共交通を連動させることで、町内各地への交流人口の増加を図ります。

また、「学生たちと一緒に進めるまちづくり」として、来年3月に本町に移転開校予定の東海大学農学部とともに、農村地域の活性化に取り組むほか、学生と地域のつながりを育む新たなチャレンジを、企業などと連携し企画・実践してまいります。